

## 令和5年度 芸術科（書道）

教科	芸術	科目	書道Ⅲ	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	「書Ⅲ」（教育図書）						
副教材等	なし						

## 1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・書道Ⅰ、書道Ⅱの授業で学んできたことを更に発展させ、自己の感性に基づいた作品制作をします。
- ・書道Ⅰ、書道Ⅱでは扱わなかった形式の作品を制作し、表現の幅を広げます。
- ・身近に飾れる作品を作ることで達成感を味わい、書を愛好する心情を育てます。

## 2 学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情と書の伝統と文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな書の能力を高める。

## 3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:書への 関心・意欲・態度	b:書表現の 構想と工夫	c:創造的な書表現の 技能	d:鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情や書の伝統と文化を尊重する態度を身に付けようとしている。	確かな表現技法を習得し、それを生かしてより自由で個性的な表現を工夫している。	自己の意図を実現するため構想を具現化し、主体的に個性的・創造的な表現をすることができる。	書と生活や諸文化との関わりについて理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評 価 方 法	観察 レポート ワークシート	観察 レポート ワークシート 提出作品	観察 レポート ワークシート 提出作品	観察 レポート ワークシート 提出作品
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

#### 4 学習の活動

月	題材名	学習内容・活動	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4 5	「漢字の学習」 ・全紙作品の制作	・五書体の中から古典を提示 ・好きな古典で全紙作品の制作 ・展覧会への出品		○	○		a 全紙作品の制作に意欲的に取り組んでいる。 b 古典の特徴をとらえ、書風を生かした表現を工夫している。 c 古典の特徴をとらえ、書風を生かした表現をすることができる。 d 様々な古典の美しさやその表現技法を理解している。	観察 提出作品
6 7 8 9	・小字数半切の掛軸	・4～7字の軸作品制作 ・字句選び ・字調べ ・五書体の特徴おさら	○		○	○	a 自己の感興や意図を表現するため、主体的に表現の構想を具体化しようとしている。 b 字句を効果的に表現する用具・用材の使い方を考え、書体や書風、線質や全体の構成を工夫している c 言葉と書体、書風との関係を意識し、線の太細や文字の大小、墨量や運筆のスピードに変化をつけて表現することができる。 d 作品から感じたことを伝え、補完し合いながら、理解を深めていくことができる。	観察 レポート ワークシート 提出作品
10 11	「漢字仮名交じりの書」 ・カレンダー制作	・漢字仮名交じりの書の表現 ・言葉を大切にすること ・線の太細、墨の潤濁、構成等の工夫 ・用紙加工の工夫 マーブリング、スパッタリング ビー玉、顔彩		○	○	○	a 想いと言葉と書の表現を深く理解しようとしている。 b 各月ごとに表現形式に変化をつけて全体の構成を工夫している。 c 言葉を効果的に表現する全体の構成を考え、線の太細や文字の大小、墨量や運筆のスピードに変化をつけて各月ごとのテーマにあった表現をすることができる。 d 表現と筆者の心情の関係を考え、自らの鑑賞を深めている。	観察 レポート ワークシート 提出作品

12	「仮名の学習」	・仮名の成立、基本のおさらい	○		○	○	a 仮名の成立や散らし書き、大字仮名等多様な表現形式に関心を持ち、その書美を理解しようとしている。 b 各古典の用筆や線質、散らし書きの特徴を理解し、書風を生かした表現や全体の構成を工夫している。 c 線の太細や墨の潤滑、運筆の速度の変化や単体と連綿による構成の変化などを表現することができる。 d 仮名の書の様式美や装飾美などの日本人の美意識を理解している。	観察 レポート ワークシート 提出作品
1	・細字作品 ・散らし書き ・色紙作品の制作 ・年賀状 ・大字仮名 ・半切作品の制作	・仮名の書の美を構成する要素 ・変体仮名の練習 ・古典の臨書 蓬萊切、高野切、 関戸本古今和歌集、寸松庵色紙、 升色紙、継色紙 ・散らし書きの効果 ・色紙作品の制作 ・年賀状の書き方、制作 ・高野切第三種の 拡大臨書						

※ 表中の観点について a:書への関心・意欲・態度      b:書表現の構想と工夫  
c:創造的な書表現の技能      d:鑑賞の能力

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。